



自然の地形を巧みに利用した回遊式林泉庭園。澄んだ水をたたえた池の周りを園路に沿って鑑賞すると、庭のさまざまな表情が見えてくる。

新緑の風景をめぐる 伝統との調和を楽しむ

時を超えて、今も
驚きを与える庭園美

最後に池田町谷口にある

梅田氏庭園を訪ねた。梅田氏は平糶盛の流れをくむ名門豪族で、広大な屋敷を構えて

桑田さんは、広島から池田に移り住んで約10年、伝統に創造性も加えた能面づくりと、能面づくりの指導にも取り

組んでいる。能面美術館では、桑田さんとお弟子さんの製作した能面70面と土占面などが鑑賞できる。

右/かすら橋。幅員は1.8メートル、高さ12メートル。カップルが橋の上で愛を誓うと幸せになれる、といわれている。下/能面美術館には能舞台も設置されていて、能楽の披露も行われる。



渓谷の風景に 溶け込んだかすら橋

そば打ち体験ができる「ふるさと道場」を横目に見て行くと、池田町の名所にもなっている「かすら橋」に出る。天然のシラクチカズラを使っ



春は新緑、梅雨時は苔、夏は水の音、秋は紅葉と、庭園の見所は四季折々。

いた。昭和52(1977)年、国の名勝に指定された庭園は建物の東側の主庭、回遊式林泉庭園と、南西側の平庭に分かれている。庭園構成と石組の手法に鎌倉末期から室町期の特色があるそうだが、専門的なことはさておき、スケールの大きさに驚かされる。

3000坪、背後の山までも生かした設計、スギ、アカマツ、モミなど、年輪を重ねた老木、造園当初のままの姿をとどめる庭石。苔むした美しい庭園に、伝統を大切に後世に伝えていく、池田の人の魂を見る思いがした。

INFORMATION

モクモクハウス



冠荘のすぐ近く足羽川沿いにある施設。建物内ではソフトクリームや飲み物、軽食のとれる喫茶コーナー、屋外にマレットゴルフ、パターゴルフ場がある。

ふるさとふれあい道場



そば打ち、餅つきが体験できる施設(要予約)。そば打ち体験は静かなアームで、屋外から眺める人も多い。そばやぜんざいなど、食事処としても利用できる。



かすら橋の周辺は公園として整備。近くにはキャンプ場、コテージ完備の冠山青少年旅行村もある。

じて、少し怖いくらいだった。公園にはこのほか、水車小屋や、イワナやマスなどの川魚が水槽で泳ぐミニ水族館、こまめの館などが整備されている。

能楽の里で 新たな能面を発信

農民の間で生まれた田楽と能が800年近く受け継がれている鶴甘神社「水海の田楽能舞」。国の重要無形文化財に指定されるなど、池田町は能楽の里としても知られている。

しかし、この能に欠かせない能面の発祥に、越前の地が深く関わっていたことは、あまり知られていない。越前は中世能面の創作期に活躍した「三光坊」など多くの面打師の出身地とされており、その流れをくむ越前出目家、大野出目家など、世襲面打師(能面師)発祥の地でもあるという。

「能面には表情を超えた表情がある。まずは眺めてみて、いろんな能面があることを知ってほしい」と語るのは、能面美術館館長で能面師の桑田能忍さん(58歳)。

た吊り橋で全長44メートル。しっかりと足下を見つめて歩を進め、橋の真ん中あたりで見下ろす渓流がまた見事。川の周辺に設けられた遊歩道も歩いてみた。流れが、上から見ているより速く、豊富な水量もさらに身近に感